

令和元年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人 藤原学園日本平幼稚園 園長 藤原はつる

学校法人 日本平幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

「健やかな身体、やさしい心、豊かな想像力」のバランスのある成長・発達を目指す。

～6つの生きる力を育てる～

自立心・積極性・協力心・表現力・想像力・感謝

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- ① 園内、園外の研修をとおして教師個々の能力アップに努める。
- ② 目的意識を持った保育の計画、実践を行う。
- ③ ICT化を推進し、園の業務の効率化を図る。
- ④ 園児一人ひとりの個性を尊重した教育実践を行う。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	評価点	自己評価	評価点	学校関係者評価委員会
保育の計画性	B	各学年主任を中心に前年度の反省点を踏まえて指導計画を作成した。さらに月に一度の主任会議の場でカリキュラムの反省や改善、新しいアイデアなどを話し合い共有し、日々カリキュラムの調整を行っている。個々の教員の保育計画は毎日の保育日誌を通して行っているが、こちらはまだまだ改善の余地があると言える。画一的な日誌形態ではなく、子どもの姿を中心とした保育日誌に変えていくのも良いと感じる。	B	昨年に引き続き、月間のカリキュラムにおいて取り組む内容やねらいが明確にされている。また園だよりを利用して内容を保護者に伝えている点も評価できる。行事では、計画的に保育、そして運営準備に取り組んでいることで、行事と日々の保育をつなげようとする努力が見られる。行事の運営面における評価、反省が多い一方で、普段の保育における反省を出来ているかどうか今後の課題といえる。

<p>保育のあり方 幼児への対応</p>	<p>A</p>	<p>近年は、様々な背景、個性を持った子どもたちが入園してくる。その為、より一人ひとりの子どもを大切に する保育、そして対応をしていく事が求められている と感じている。また教師同士のコミュニケーションを 活発にすることで、新しい保育のアイデア、子どもへ の対応の仕方を共有し、園全体として保育のあり方を 常に探求していく姿勢作りに励んでいる。</p>	<p>A</p>	<p>教師の声掛けなどから、子どもたち自身に考えさせる という事を大切にしていると感じる。そして出来るだ け子どもの意見に耳を傾けながら、真剣に保育に取り 組んでいる様子が見られる。また教師同士が活発にコ ミュニケーションを取っており、子どもたちの様子や 対応を、チームとして考え、取り組んでいる様子が見 られる。</p>
<p>教師として資質 能力、適正等</p>	<p>B</p>	<p>教師としての資質・能力は、日々の学び、そして研修 によって培われていく。その為、保育技術に関するこ と、チームワークに関すること、キャリアアップに関 係すること、それぞれの視点で様々な研修に取り組ん でいる。今後は、研修で学んだことを現場にどう生か すか？そして、より体系的にステップアップできる仕 組みづくりを園としてどう取り組んでいくべきなの か？ということが課題といえる。</p>	<p>A</p>	<p>教師としての資質・能力は個々の教員に差はあるが、 研修などを通して、その資質の向上に繋げていると感 じる。外部講師を招いた研修、外部へ赴く研修会、園 内研修を始め、保育に関する研修や教師としての考え 方幅広い研修に年間を通して取り組んでおり、幼稚園 として教師の資質向上に努めている所が評価でき ると感じる。今後は、さらにキャリアステップに合わせ た研修を進めて欲しいと感じる。</p>
<p>保護者への対応</p>	<p>A</p>	<p>保護者への対応については園長をはじめ、服装、言葉 遣い、立ち振る舞いについて、常に指導、指示されて いる。 また教師同士のコミュニケーションを活発にしてお り、子どもだけでなく、保護者の状況についても常に 情報共有に努めている。 また「ウイークリーメッセージ」という連絡ノートで 保護者に園での子どもの様子を知らせ、園と家庭との 情報交換に努めている。</p>	<p>A</p>	<p>昨年に引き続き、家庭との電話連絡やウイークリーメ ッセージ等、子どもの園での様子や家庭での様子の情 報共有をはじめ、日々の家庭とのコミュニケーション に努めていると感じる。 また保護者からの意見には真摯に耳を傾け、それを実 際に改善していく姿勢が見られる。また園長を始め日 頃より、丁寧に説明することを心掛けている様で、保 護者との良い関係をつくる為に努力をしている姿勢 が評価できる。</p>

<p>地域の自然や地域との関わり</p>	<p>B</p>	<p>地域との関わりは、遠足等の行事を通しての地域の自然環境、人々との関わりが多いと感じている。すぐ上には、日本平運動公園もある為、気温が良い時には遊びに出かけることもある。しかし、決して頻繁にというわけではない為、地域の自然環境や人々との交流を含めたカリキュラム作りに励んでいく必要があると感じる。</p>	<p>B</p>	<p>お茶摘みやいちご狩り、遠足等の行事を通して地域の環境や人々との交流があると感じられる。園の環境自体も自然にあふれ魅力的だと感じるが、その環境に甘えることなく、様々な環境との関わりづくりに励むことは非常に良いと感じている。今後は、地域の人々を招いた体験活動など、子どもたちと直接かかわれる機会があると良いと感じる。</p>
<p>研修と研究</p>	<p>B</p>	<p>園内研修では、ビデオを使った研修を月に一回行っており、職員全員一丸となって取り組んでいる。また、外部講師を招いた研修や外部に赴く研修も積極的に行っており、保育の専門家からの意見や、働く人間としての総合的な能力アップ、様々な考え方に触れる研修など、内容も多岐にわたっている。教師という職業に就いた以上、常に学び続ける姿勢が大事であり、研修は機会として重要な位置づけをしている。</p>	<p>A</p>	<p>市内研修等の園外研修や園内研修を年間通して積極的に取り組んでいると感じる。研修内容も多岐にわたっており、保育者としてだけでなく、社会人としてスキルアップするように計画立てて取り組んでいるように感じる。普段保育をしている中で、研修の時間を確保することは簡単ではないが、これからも是非取り組んで欲しいと思っている。</p>
<p>外部アンケート</p>	<p>A</p>	<p>今年度も良い評価がとても多かった。保護者のほとんどが、保育内容に満足しているとの回答であった。普段から保護者とのコミュニケーションを大切にしているので、その努力がこういう結果につながっているのだと感じる。</p>	<p>A</p>	<p>全体的に今年も良い評価が多かった。保育内容や行事、保護者対応についても良い評価が多かった。これからは保護者との良い関係を継続できるように、努力をして欲しいと感じる。</p>

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ① 講師を招いた専門的な研修、普段の保育の園内研修、園外研修を通して、職員全体の資質向上を図ることが出来た。
- ② 一つ一つのカリキュラムや行事の目的を話し合ったり、目的を大切にされた保育の実践が出来た。
- ③ ICTの更なる活用を目指し、副園長を中心に積極的に活用することで、様々な面で業務の効率を改善することが出来た。
- ④ 子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、その子のペースに合わせて頑張れることを見つけられるよう努力した。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育の反省と改善	毎日の保育の反省をじっくり行うことが出来ずにいる為、ICTなどを利用し、短時間で効果的な反省と改善が実現できるよう行っていくことが大切であると感じる。
チャレンジする姿勢	毎年同じことをやっている、人間はその枠からはみ出すことを怖れるようになる。保育も同様で、違った考え方に触れたり、他の保育を見ることで刺激を受け、新しい試みにチャレンジしていく姿勢が教師にも必要だと感じる。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

素晴らしい自然環境の中での生活は、私たち大人が羨むほどである。このような環境の中、幼稚園生活を送ることが出来る子どもたちは本当に幸せだと感じる。また教師もやりがいと誇り、情熱をもって保育に取り組んでいる姿勢が見られ、総合的に見て恵まれた環境であると感じている。

当然その環境は自然にできたものではなく、教師は自己研鑽を続けながら日々保育に取り組んでおり、また施設も状況に応じて改修や整備がされているからである。やはり普段から「このままでいいや。」という立ち止まった考え方ではなく、「常にステップアップをしていくんだ！」という気概を持って保育・運営しているのだと感じる。

これからの時代ますます難しく複雑になっていく中で、子どもたちが自分を発揮できるよう、そして幸せに生活する為に必要なことを幼稚園で学べるよう、日本平幼稚園として何が出来るか問い続け、実行と改善を計って行ってほしいと感じた。